

鉄師の魂 伝統の技受け継ぐ 日刀保で操業

日本で唯一、日本刀の原材料となる玉鋼を製造する「日刀保たたら」で、三昼夜にわたる操業が一月二十日から二月六日までの間、三回に分けて行われました。

操業は、国選定保存技術保持者で技師長の本原明さんと上級村下養成員が、三十分ごとに砂鉄を装入、また十一人の村下養成員が木炭の装入や諸作業を約七十時間にわたって行いました。

一回の操業では、砂鉄十ト、木炭十二トが使用され、不純物を取り除くと約二・五トの玉鋼（一級品玉鋼は約六百キロ

程度）が取り出されました。

「たたら」は、古来から伝わる製鉄法で、一九四〇年代に一度途絶えましたが、昭和五十二年に「日刀保たたら」として復元。その技術と精神は、今も脈々と受け継がれています。

本原さんは「先人から引き継いだ伝統技術。これからも技術はもちろん、その精神も後継者に伝えたい」と話されました。

なお、この貴重な玉鋼は、全国約二百五十人の刀匠に供給されます。



▲燃え盛る炉に砂鉄を投入する本原さん

日本古来の製鉄技術 海を渡る

米国・ミネソタ大学で美術学を指導し、鋳物彫刻家としても活躍する、ウェイン・ポトラツ教授が、日本刀保たたらでの操業を見学されました。

同教授は、芸術作品を制作する材料として、玉鋼に魅せられ、平成十三年に日刀保たたらで本原村下より技術指導を受けられました。

その後、本原さんも平成十六年に招請を受け渡米。芸術家や鉄の研究者を対象に、講演や実習指導、公開研修を行いました。その後も交流を深めてきました。

今回初めて日刀保での操業を見学されたポトラツ教授は、「燃え盛る炎が印象的で、この中から世界一の玉鋼が生ま

れる」と感慨深げに燃え盛る炎を見つめていました。

本原さんは「洋鉄とは違う純度の高い、粘り強く美しい日本の鉄づくりの文化と、先人の偉大さを米国の人にも知ってもらいたい」と話されました。



▲ポトラツ教授(左)と本原さん(右)

本物の食文化伝える

一味同心塾で 子供料理教室



▲中村館長から指導を受けながら作業に取り組む児童

今年で七回目となる亀嵩小学校五・六年生を対象とした「子供料理教室」が二月十日、一味同心塾で開かれました。

はじめに、料理研究家で同館長の中村成子さんから、仁多米が水や土壌など豊かな自然に育まれていること。そして先人の知恵と工夫によって守り継がれていることなど説明があり、児童たちは興味深く聞き入っていました。

その後、児童たちは、中村館長から「食材をしっかりと吟味し、素材の味を活かすこと。料理に工夫を加えることでき

らに楽しくなる」などアドバイスを受けながら、人参と玄米のスープや牛肉の豆腐ハンバーグ作りなどに挑戦しました。

児童からは「自然の中に私たちの命が活かされていることが良くわかった。食材や料理のことを教わり、家の人にも伝えたい」など感想がありました。

この料理教室を通して、自然の恵みに感謝するとともに、ふるさとの良さ、「食」と命の深い結びつきについて考える良い機会となりました。

全国中学校スキー大会激励式

第四十七回全国中学校スキー大会に出場する安部万里さん（横田中三年）の激励式が一月二十八日、役場仁多庁舎で行われ、井上町長から激励金が贈られました。

井上町長から「全国から強豪が集まる大会。果敢にチャレンジして、よい滑りを期待しています」とあいさつがありました。

これを受けて安部さんから

「今回で三回目の出場となるが、中学校最後の大会となるので、強い気持ちで滑り、悔いの残らない大会にしたい」と抱負が述べられました。

大会は、二月三日から六日まで、岩手県八幡平市で開催され、アルペン競技のジャイアントスラローム、スラロームの二種目に出場しました。



▶井上町長から激励金を受ける安部さん

三井野原でスキー大会

一月十七日、第四十三回陰陽三井野原スキー大会兼仁多郡スキー選手権大会、第四十回仁多郡中学校スキー大会が三井野原スキー場で開催されました。

晴天の下、選手たちは日頃の練習の成果を発揮していました。



大会結果 スラロームの部

【小学校女子】

一位 長谷川美優（三成小）

【小学校男子】

一位 安部 大河（横田小）

【中学女子】

一位 安部 真慧（仁多中）

【中学男子】

一位 片寄 裕也（横田中）

過去最高の来場者

島根ふるさとフェアIN広島

広島県へ島根の魅力を紹介する「島根ふるさとフェア2010」が一月二十三日、二十四日の二日間、広島市中区の県立総合体育館などで開催されました。

今回のフェアは、過去十三年間で最高の人出となる、延べ十八万六千人を記録し、両日も多くの来場者で賑わいました。

特に、屋外の屋台村では、

奥出雲和牛の焼肉コーナーや手打ちそばが好評で長い行列ができました。

メイン会場の特設ステージでは、「奥出雲神代神楽」による神楽が上演され、会場を盛り上げました。

奥出雲町からは椎茸や舞茸などの特産品をはじめ、もち、酒、和菓子など六団体が参加し、二日間で奥出雲の魅力をPRしました。



▶にぎわう会場の様子

文化財防火デー

地域の宝

昭和二十四年の法隆寺金堂の壁画が消失したのを契機とする文化財防火指導が、全国各地で実施されました。

町内では一月二十七日、県指定有形文化財などを収蔵している絲原記念館や蔭涼寺、櫻井家住宅で防火パトロールが行なわれました。

この日は、消防署員をはじめ、県の文化財担当者や町の教育委員会職員が消防器具や

火災報知機などの設備に異常がないか点検しました。

私たちが、文化財愛護や防災意識を高め、貴重な文化財を後生に伝えていきたいと思います。

